



「水産品」の検査も、 厳しく継続していきます。

原発事故後、原発に流れ込む地下水が「汚染水」となって海へ流出しています。流出を防ぐための壁が設けられていますが、完全には対策ができていません。汚染状況が把握しづらいなか、パルシステムでは水産品の検査もいっそう厳しく継続していきます。

魚の種類ごと、漁獲域ごと、漁期ごとに検査をしています。

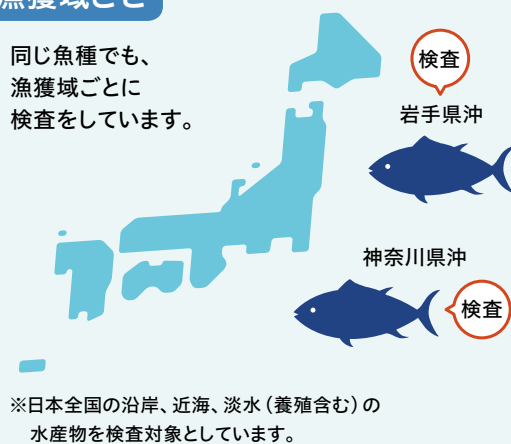
魚の種類ごと

いわし、しらすなど…



漁獲域ごと

同じ魚種でも、
漁獲域ごとに
検査をしています。



※日本全国の沿岸、近海、淡水（養殖含む）の水産物を検査対象としています。

漁期ごと

春にとれた
「いわし」



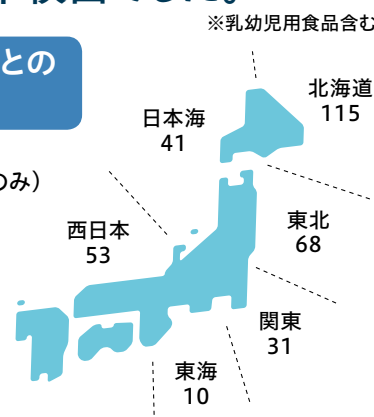
秋にとれた
「いわし」

2016年度は491検体で
すべて不検出でした。

漁獲域ごとの 検査数

（漁獲域が
明確なもののみ）

北太平洋
22
その他（海外）
32



産地とつながっているからこそ、 どこでいつ獲れたかまでを確認。

東京電力の原発事故で特徴的なことは、放出された放射能の約7割が太平洋側に拡散したこと、事故後の原発に流れ込む地下水が「汚染水」となって海に流れ込み続けていることです。水産品について、心配される組合員も多くいます。そのためパルシステムでは、水産品の検査も重点的に行っています。魚種によって食べているエサも暮らしている環境も異なるため、放射能検査も魚種ごとに行っています。

とくに大型の肉食魚はエサから放射能を体に取り込んでしまう恐れがあります。また海底に棲みついているものは海底の放射能の影響も心配されます。そのため、これまでは大型の肉食魚であるマグロや、底魚のカレイやヒラメなどについて、不定期で検査をしていましたが、2016年度からは、定期的な検査を実施しています（北太平洋の一部）。

パルシステムでは、日本全国の近海で漁獲された魚を原料にした水産加工

品も検査しています。日本海側で漁獲された魚介類も、淡水で養殖されたり、漁獲されたりした、うなぎ、しじみなども検査の対象にしています。とくに、北海道から関東の沿岸近海のエリアを重点地域として、原料切り替わりをした月に検査を行っています。

たとえば、いわしが3月に千葉県で漁獲され、4月に神奈川県で漁獲された場合は、それぞれ検査を行います。

魚の生態と放射能の関係は不明な点が多く、厳しく検査を続けることで、放射能が取り込まれていないか確認することができます。

放射性ストロンチウムについては、水産品でセシウムが検出された場合に計測することになっています。パルシステムでは、2014年度にストロンチウムの検査を行い、不検出を確認しています。以後は水産品からのセシウム・ストロンチウムの検出はありません。

パルシステムでは、原発事故後6年間でおよそ2500件の水産品の検査を行ってきました。産地とのつながりが強いからこそ、どこでいつ獲れたかまでを確認することができます。今後も、ていねいに検査を続けていきます。

パルシステムの 自主基準 （独自ガイドライン）と 検出限界について

パルシステムでは食品の放射能について**自主基準（独自ガイドライン）**を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、**基準以下であっても、放射能低減を追求します。検査の結果、自主基準を超えるものについては供給いたしません。**また、自主基準（独自ガイドライン）は継続的に見直しを行います。

自主基準（独自ガイドライン）（セシウム134,137の合計） 2014年10月より現行基準（単位Bq/kg）		国の規格基準	
水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品	10	水、飲料茶	10
		乳児用食品、牛乳	50
青果類（きのこ類除く）、肉類、卵、魚介類、海藻類、その他食品、きのこ類（しいたけ除く）	25	一般食品	100
しいたけ	100		

※乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。

※乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの「赤ちゃん・キッズOK食材」掲載商品。

検出限界値

検出限界（ヨウ素131、セシウム134,137それぞれ） 2016年4月1日から 新基準に変更（単位Bq/kg）	
乳幼児用食品	1
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3

●フルーツyumyumセットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産（新潟・長野・静岡以東の本州産）
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水産水産物

●青果は、北海道を除く東日本（新潟県・長野県・静岡県以東の本州17都県）のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査をしています。注文時にあわせて公開しているオンラインの自主検査結果に検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。

●水産は、北海道から関東の沿岸近海のエリアを重点地域として、原料切り替わりをした月に検査を行っています。

●検査は、ご注文にあわせて実施していますが、冷蔵・冷凍・常温の各加工品は年1回計測しています。

Q

放射能検査状況について

パルシステム自主検査の報告

(2017年1月25日までの検査結果)

＜ 2016年度の検査数(カッコ内は検出件数) ＞ 不検出率:98.4%

青果	483 ⁽¹⁾	魚介類	266
しいたけ	68 ⁽⁴³⁾	乳幼児用食品	336
きのこ類 (しいたけ除く)	128 ⁽⁴⁾	飲料水・飲料	71
米	67 ⁽²⁾	その他(加工)食品	1639 ⁽¹⁾
牛乳・乳製品	78	総計	3197 ⁽⁵¹⁾
肉類・卵	61		

測定方法について

パルシステムでは、検出数値が正確な「ゲルマニウム半導体検出器」2台を使用しています。食べられる部分だけを取り出し、細かく切るなど下処理をして、測定容器にできるだけ詰め込み、外部の放射線の影響を受けないように厚い鉛の容器で遮断して、精密な測定を行います。

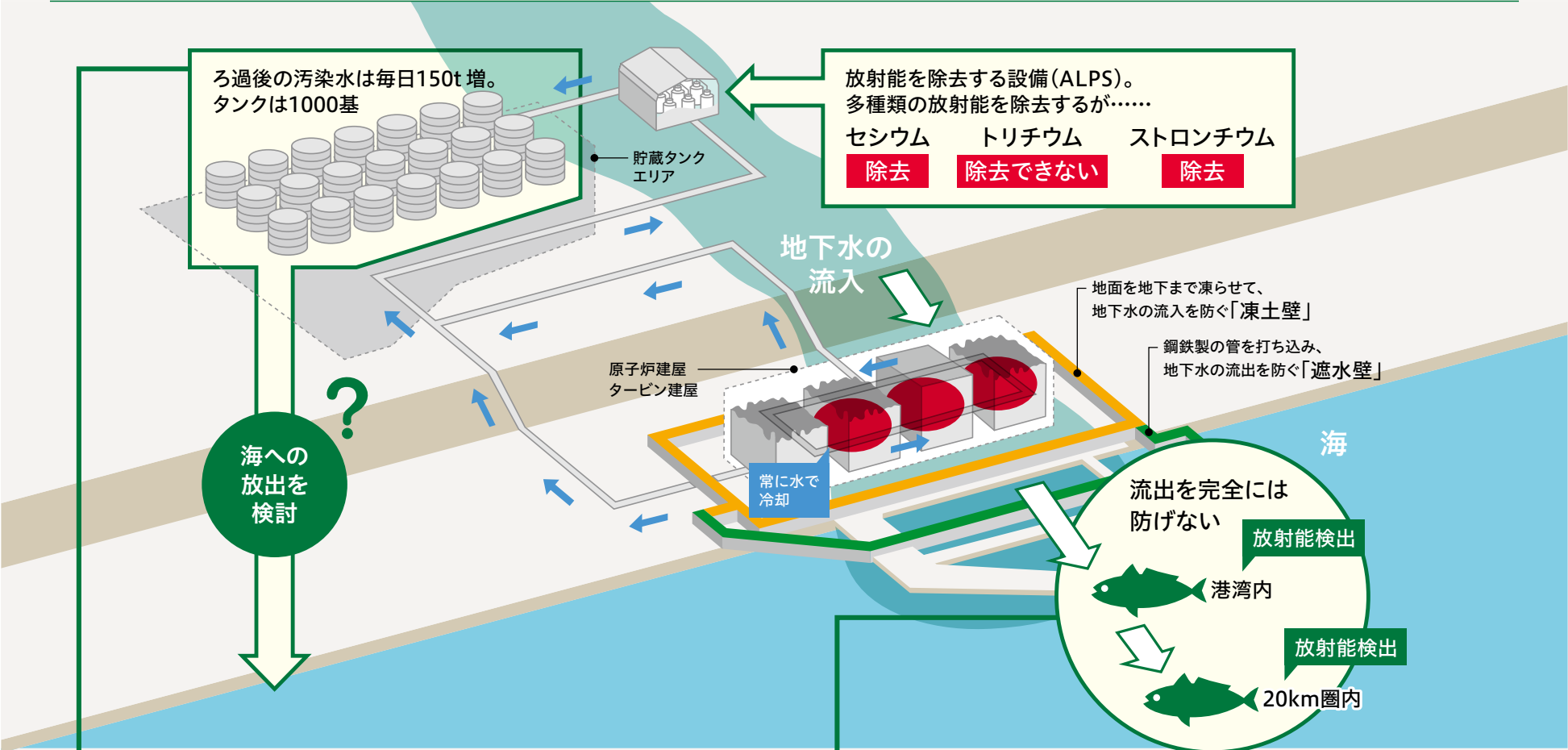
＜ 検査結果:2017年1月25日現在 ＞

青果	2016年5月に小田原のバレンシアオレンジの3件中1件から3.2Bq/kgが自主基準内で検出されました。
しいたけ	生しいたけ(3.1～13Bq/kg)で放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	しめじ(ひらたけ)(3.0～3.5Bq/kg)、ぶなしめじ(3.1Bq/kg)で放射能が自主基準内で検出されました。他のきのこ類は放射能不検出です。
米	2016年産米の検査は27産地67検体の検査を行いました。日本の稲作を守る会の栃木こしひかり(玄米)を検査したところ、2件(3.9、4.1Bq/kg)の検出がありました。検出された玄米を白米で再度検査した結果、検出はありませんでした。米の全産地の検査は終了しました。 ※放射能はぬか部分に多く蓄積します。検出された栃木こしひかりは、白米でのお届けとなります。

牛乳、肉、卵	産地ごとに定期的に検査しており、今年度放射能は検出されていません。
魚介類	魚介類で放射能は検出されていません。
乳幼児用食品	検出下限値1Bq/kgで検査を行っておりますが、すべて不検出です。
その他食品 (お料理セット)	肉・豆腐などは定期的に検査を行っています。野菜のみを毎月検査を別途行っています。菌茸類については毎週検査を行っており、しいたけおよびしいたけ水煮(3.4～14Bq/kg)から自主基準内ですが検出されています。その他のお料理セットで使用されています菌茸類(えのき茸、マッシュルーム、ぶなしめじ、まいたけ)からの検出はありません。
その他食品 (大豆加工品)	豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、2014年産および2015年産原料で検査を行っているものと、製品で検査を行っているものがありますが、放射能は検出されていません。
その他食品	ブルーベリー&ルテイン(6.5Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品は2016年より1Bq/kgに検出下限値を下げました。

「汚染水」の問題は、解決していません。



問題1

汚染水のタンクは容量が限界。
海への放出も検討されています。

事故後の原発には、1日当たり約300tの地下水が原子炉建屋に流れ込み、新たな汚染水となっています。汚染水が海へ流出するため、原発事故直後から緊急課題とされ、それを食い止める「遮水壁」が作られました。直径約1メートルの鋼鉄の管594本を地下30mまで打ち込み、間にセメントを流し込んだ、780mの壁が完成しています。さらに、原発を囲むように地面を凍結させることで地下水の流入を防ぐ「凍土壁」が作られています。冷凍機で作った-30℃の冷媒を1500本のパイプに循環させています。電気を使って冷やし続けなければならない、費用は年間10億円を超えると見積もられています。

「汚染水」は井戸からくみ上げ、放射性物質を取り除く設備でろ過していますが、放射性物質のトリチウムだけは取り除くことができないため、処理後に地上の汚染水保管タンクに保管しています。現在、原子力規制委員会では、この汚染水を薄めて海に流すことを検討しています。

問題2

「遮水壁」と「凍土壁」があっても
汚染水の流出は防げない。

現在では「汚染水」がそのまま海に流れることはない、とされています。しかし鋼鉄の壁があっても地面を凍結させていても、周囲や隙間から染み出します。実際に2016年9月13日発表の原発周辺の海水分析結果では、10Bq/l(南側放水口付近)が検出されています。また、地下水は急増することもあります。2016年9月20日には、台風の影響で地下水があふれ出し、そのまま流出しました。

このようなことが重なり、東京電力が定期的に行っている魚介類の放射能検査では、高濃度での検出が続いています。2016年11月22日発表の港湾内の検査結果でも、シロメバル4550Bq/kg、ヒラメ213Bq/kgのように高濃度で検出されています(※1)。検出される魚種はカレイ、ヒラメといった底魚で多くなっています。

事故後年数が経ったとしても、引き続き検査をしていくことが求められています。

※1「魚介類の核種分析結果<福島第一原子力発電所港湾内>」東京電力2016年11月22日発表による。

- 週次の「放射能関係のお知らせ」はホームページで掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城・パルシステム福島・パルシステム静岡

パルシステム
問合せセンター

0120-868-014

※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

月～金曜日:9時～20時/
土曜日:9時～17時

パルシステム山梨

甲府センター ☎ 0120-28-5891
西桂センター ☎ 0120-32-1061
一宮センター ☎ 0120-21-9898

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。

パルシステム群馬

高崎センター ☎ 0120-60-5118
渋川センター ☎ 0120-36-3315
東毛センター ☎ 0120-63-3735